

歐米漫遊所見

後藤新平

此席に出て御話をするやうにといふことで出ましたが、少し御觸れは違つて居るやうです。實は私は歐米漫遊の話をしてない、それでさういふ積りもなかつたが、何れ御話しませうといふことを申した、ところが漫遊の所見といふので、何か歐羅巴の話でもするやうに御覽になつた御方もあるかも知れませぬが御断り致します。前席に於て佐久間文學士の花も實もある所の御話がございました、私のは紙屑籠のやうな話で「ごちやん」の系統のない話であります。併しながら御聴手が宜いのでありますから其紙屑の中からも好き證文でも好き文書でも御見出しになることは必ず出来ることと思ひます。

歐羅巴から歸つて何故に歐羅巴の話をしてないかといふ斯ういふ御考もございませう。是は或人が來てお前は一体お喋りだから決して言つちやいかぬと止めたんだなどいふことも申しますが、是が一つの注射で痛みが止まるやうなものではない。何故かといふに話だけに摺むことが出来ぬ、是が事實である。今度の歐羅巴亞米利加の戦争に關係することは實は摺めない。私は相當に助手も有つて居る、相當の助手といふのは七人も手傳つて居る。中には新渡戸博士の如きもあります、詰り新渡戸博士の如きに至つては腕を撥ねたやうに途中から取られたやうな譯でありますから、其手を失つたのだから尙ほ話せな

い譯もあるけれども、大体其他の若い人にも大分世話になりました。併し之を寫して持つて来て話すといふことはむづかしいことであります。或席でも話したやうに皆さん御承知か知れませぬが、アツブルゲームといふものがありました、大きな林檎を上から吊して置いて之を噛む、誰が噛むか、それを先によつた者が勝で随分やるのですが、林檎が大きいからどうしても噛めませぬ、首がもう怠くなつて何程やつて見ても噛めませぬ、それと同じことである。又他の言葉で言ふと大きな毬に手を掛けたやうなもので、是をと思つて手を掛けても之を日本に持つて来て皆さんの前に見せることが出来ない、是が即ち歐羅巴の今度の戦前戦後に至るまでの全体のことであり、それであるから私は漫遊の話をしなさい。若し強ひて御求めになれば行つて御覽なさいと言ふ、それより外にない。必ずしも私が言葉を設けて言ふのではない、實際それが眞實である。如何な法螺吹きでも歐羅巴亞米利加の戦時に於ける所の現況を實況より以上に法螺で膨らます者は一人も居らない、世界中居るまい、是が實況である。又世界の名畫を書く人でも之を書いた人がない、又世界の詩人でも之を歌つた者はない、世界の文章家でも之を書出した者は今までない。宜べなるかな二千億弗即ち四千億圓といふ金を掛けてやつた所の世界の破壊、それで文明の學術を以て出来るだけ應用否誤用をしたものであります。學術の危険な誤用をするに二千億弗四千億圓を掛けてやつた所の破壊、其破壊の道程、是が今度の歐羅巴亞米利加に於ける大体なのである。之を持つて来て漫遊の所感など、言つて話すなど、いふ大膽なることはどうしても出来やう道理が

ない、斯ういふ譯である。唯だそれも一部のものを持つて來て言つて見たらそれはありませう、唯一部のものを持つて來て話をしたら、それは丁度皆が行つて見た通りであつて、皆歸つて來た人は私より早く歸つて來た人も遅く歸つて來た人もあるから澤山御聴きでありませう。丁度駿河の國に行つて富士の山を見て斯ういふ形だといふことは大体に於ては皆同じであります。其を繰返した所が詰らぬ。漫遊の話を避ける譯ではない、出來得ない、斯ういふのが事實である。繰返して申しますと先づ出来るだけ行つて御覽なさいと言ふ。

何故早く行くと言ふか、其一例を言ふと、有名なるヴェルダン、是は此處に橋本閣下も居られました御話すまでもない位のこと、段々陸軍部内の方にはヴェルダンの御話もございましたことでありませうが、此ヴェルダンといふものは本城と出城といふやうな風でありまして、丁度満州でいひましたならば、松樹山の砲臺といふやうなもので有名な防禦砲臺、其間道路にも依りますが、或近路を行つても六哩あつて廻つて行けば十哩位本城とは距離があります。此處に唯行つて見て誰も説明する人がなかつたならば茫然として歸つて來る外に何もものも得られない。今は寒くもありませんから三四月頃まで行つたならば大した變化をして居らぬか知らぬが、それよりは遅れて行けば草が生えて居るといふ譯である。此間といふものは元相當な村も處々にあつて、町のやうなものもあつて、それから大なる森林があつて、其森林を以て砲臺の周圍をすつと蔽ふて居つたのである。其森林の間に隠れた道路があつて其本城とヴェ

ルダンの防禦砲臺との間を通過して居つた、幾つも道があつて通過して居つたといふ斯ういふ所である。唯今行つて見ると其森林といふものは何處にあるか、森林といふものは木が倒れて居つて根が出て居つて、是は森林の跡だといふことが分るが、村の跡などは薩張り無い、唯だ防禦砲臺は幾分残つて居る、話は前後するやうだが、防禦砲臺はどんなものか、所謂レナル少佐、有名なる此人が守つてさうして敵の爲にヴェルダン砲臺との間を絶たれて、さうして死守して回復を圖つて、其大凡十哩乃至六哩ばかりの間に於て味方の軍は四十萬、敵の軍は六十萬、是は昔の歴史のやうに幾萬と號するといふのではない、全くの六十萬と四十萬で、其六十萬と四十萬合せて百萬の者は埋つてしまつた、さうしてそれのみならず木が埋つてしまつた、所々に大きな穴のやうなものがそこらに残つて居るばかりであつて、大砲の彈丸の地中に埋つてさうして破裂をしてやるのだから丁度掘つくりかへし、くりかへし敵が取つたり、自分の攻めたりして其間といふものは幾回となくやつた、さうしてレナル少佐の居つた所のローム砲臺といふものは終ひに到頭取戻して守つたり敵を逆襲して居つたりしたけれども、獨逸皇太子軍の爲に占領せられて皆捕虜になつた、其捕虜になる三日前から小便水を飲んだと斯ういふ譯である。斯ういふ激戦である。けれども行つて見ると要するに一番慘狀といふ所は誰かへ行つて精しく説明して呉れぬと分らぬ二等三等までは分らぬ、四等位の慘狀になると成程慘狀だといふことが分る。例へばランスス新聞に名高いランススなどに行くとは是は即ち十三萬の人口の所であつて、彈丸に中らない家は三軒しかない、三軒

といふのは一階の物置みたやうな家であつて、あとは悉く破壊せられて上の四階も五階も取れてしまつて下だけ残つて居る、或は半分破られたり、満足な所は十三萬の人口の所で一もない、是は誰が行つて見ても慘狀である。慘狀であるけれども之を本當に調査をして見ると一等の慘狀にもあらず、二等の慘狀にもあらず、三等の慘狀にもあらず、四等位の慘狀といはなければならぬ。それだけの物が残つて居るだけ四等位になる。斯ういふ形跡である。それであるからウィルソンが戦地の慘狀を見て呉れといふのに決して行かなかつたといふことであるが、それを見れば如何にも同情を表さなければならぬ。

又白耳義に這入つて見ても其通り矢張一等の慘狀地といふものは草が此位（尺計）に生れて居るだけである。寫眞を持つて來れば宜しうございましたが、一寸慌て、忘れて來ましたが、其白耳義のオステンドから自働車で二十分位行つた所にムーアといふ村落がある。其處に七萬七千五百八十キロの大砲が並んであつた、是はダンカーを射撃した砲である。それからあとの佛蘭西を射撃したのは何處に行つたか、あの有名な大砲は何處に行つたか分らぬといふことであつたが、オステンドの側に遺つて居りました。其大砲といふものは丁度大砲の斯うなつて居る此處（砲身の後方、閉鎖器）を明けて見ると、中に歐羅巴人が這入つて顔を出して居る位の大きさである。長さは十七米半、七萬七千五百八十キログラムである。それでやつた、二十五哩乃至三十哩射撃がきく。さうして其砲臺などいふものは中々連も吾々素人が見てもさうですから黒人が見てもさうでせう、十日や十五日で出来るものではない。其砲の

下の臺が丁度クルップで拵へて千九百十四年に拵へたといふ印が捺してある、其周圍にはカモフレージがすつかりしてあつた、其近傍の村は何も無くなつてしまつた、それはどうかといふと、それを見掛けで味方の方から撃つたから其邊の物はまるで無くなつてしまつた、中に埋まつてしまつた、さういふやうな譯で今度の戦争といふものはまるで違ふ。是は軍の人が御話になつた方が能く分ることでありませうし、分り宜い言葉を以て話されるでありませうが、先づ文明學術の危険の應用をしたといふ程度はそれは言葉にも何にも盡されはしない。さうして此飛行機、潜航艇の話などは是は除いて置いて唯だ今話した所が一部分の話だけである。さうして此白耳義の各地の製造場などを毀した有様といふものは實に慘劇を極めて居る、此處に行つて見ると製造場殊に鐵工場にあつた所の機械は皆獨逸に持つて行つてしまつた。それから先刻話したランスなどに於ても何も罪も無いのに砲撃をして居る。其處に兵隊も何も居らぬ、町の中に態と兵隊などを置かないで外の方で戦争をするやうにして置いたに、彼處に有名な寺があつて其處にはジャンダークの像などがある、歴代の帝王即位すると必ず來た寺がある、其寺などは何も必要が無いに拘らず砲撃して毀してまつて居る、行つて見たら大變なものである、慘狀といふものはまだ形が遺つて居る所にある、必ずさうである、それで私は斯ういふ、一体講和會議といふことになつた以上恩怨を忘れてやらなければならぬ、然るに我儘勝手な要求を提出して各國がやつて居る、實に間違つたことをやつて居るものであるといふことを自分は深く感じて居る。

それから亞米利加から倫敦に這入つて倫敦に於て少し不快で寢て居る間にも切にさういふ考を起して若し巴里に行つたならば、さうして相當の人に逢つたならば是は實に恩怨を忘れてやらねばならぬといふことを何人にも勸告せねばならぬといふ位に私は思つた。然るにさういふ考を以て巴里に這入つて聞いて見ると、ウイルソンなどは白耳義にも終ひにちよつと行つたぎり、彼處に行つて呉れ此處に行つて呉れといふことを言はれても行かなかつた、そこで白耳義人はウイルソンに同情無しと怨んだ。佛蘭西に於ても方々見て呉れといふことを言つたが見なかつた、私は其筈だと思つた、行つて見るといふと成程どうしても獨逸は不俱載天の仇なり、肉を割いて喰はなければならぬといふ考が起るだらうといふ考がある。それが大体の慘狀といふ所の一部分だか十分の一だか分らぬ。是は私の不辯を以て述べ私の秃筆を以て書いたならば必ず其眞價を減する、是は必ずさうである、又更に更に雄辯な人が、更に名文を以て書いても眞價を減するのである、實際行つて見ぬ以上は何とも分らぬものであると思ふ。又行つて見れば一体に何と言ひますか知れませぬが、吾々の文明生活といふものゝ程度といふものに就て諸般の方面に對して觀察が屆く、上根の人は上根、下根の人は下根相當に觀察が屆く、是に對して佛蘭西なり英吉利なり白耳義なりの人が非常に奮闘した跡、又亞米利加人の奮闘した跡などいふものは逆も話にも何にも出來た譯のものではない、そこで私はどうしたらば出來るだらうかといふ考を有つたけれども、どうしても寫して持つて來ることは出來ぬと考へた、此間東京で開いたポスターの展覽會にも出したが、

是は即ち一部は公債を募集する所の貼紙、それから一部は食物制限の貼紙、一部は兵隊募集の貼紙、一部は赤十字社の同情に訴へる貼紙、斯ういふものを百枚ばかり持つて来て此間ポスター展覽會に出した、是は御覽になつた御方がありませうが、是は即ち其儘持つて来て見せたが、人の上根下根に依つて始めて判断が出来る譯で、其は私が物を言はないで見せた方が判断が出来る譯である。丁度恰も統計表を見るやうな譯で唯だ乾燥文字を並べたなど思つて行く人もあるし、それに依つて非常な徹底的な意見を以て居る人もあれば其人次第のものでありますから、それで稍々一部を寫すことが出来る。歐米の戦争生活といふものに就て見ることが出来るといふ譯で持つて来たといふやうな譯で何分之を寫すことは出来ませぬ。先づ戦争生活といふ所はさういふ譯であります。

要するに此戦争はどうして起つたものであらうか、是が一番問題であります是は能く新聞にも書いてある通り獨逸の横暴が第一の原因、各國の野心、是が第二の原因、而して之を要するに獨逸のミリタリズム、軍國主義即ちデモクラシーの征服、其勝利であると、然し私は嘘とは自分は言はないけれども是は即ち獨軍の軍旗。場當りをやる奴共の軍旗に書いた唯だ話である、日天、月天を書いたり象を書いたり鷲を書いたりすると同じことで軍旗の章であつて是が本當のものでも何でも無い、斯ういふ風に見えます又一方には是は經濟戦であると言ふ、較々其意を得るに近いか知れぬけれども、まだ其真相を得たものでなからうと思ふ、戦争の起りから戦争の休み、平和條約、今日戦後の善後策、斯ういふものま

で一貫して居るものは何であるか、其問題で一番大体が分る問題ではなからうかと思はれる。それは獨逸に於ける産業參謀本部の整頓に對して英米と雖も是に敵對することが出来なかつた。獨逸に於ける産業參謀本部といふものは如何なる組織のものであるかといふと、是は即ち霞ヶ關のやうな建物があつて其中に這入つて居ると誰でも分るものであるし誰でも讀めるものである、ところがさういふものではなくして全國に跨つて散布して居るものである、さうして一の脈絡系統があつて之を統一して行くやうに出来て居る所の參謀本部の仕組である、其産業參謀本部の仕組は獨逸五十年間の苦心に依つて出来て居る、それは一部は大學、一部はインスチテュートラボラトリー、一部は製造場、工場諸般の所に蟠つて居る所の學術的進歩の上から拵へた研究所、試験所の組織である、それが綜合して働くやうになつて居るのが獨逸産業參謀本部の近世の組織である。此近世の組織に對して抵抗が出来なくなつてしまつた、亞米利加の如きは較々其肩を摩することが出来た、其は最近の亞米利加大學の進歩は非常である、それから亞米利加のインスチテュートといふものも盛んなものである、是は唯だインスチテュートばかりとしたら獨逸をして後へに蹉若ならしむるに足るものがある。ポストンのインスチテュート、オブテクノロヂーなどは是は實に盛んなものである。序でに一言申して置くが此テクノロヂーのインスチテュートといふものは世界に斯ういふ面白い組織のものはないからうと思ふ、是は今から五年か六年前にミストルスキといふ名で五百萬弗寄附が來たインスチテュート、オブ、テクノロヂーに使つて呉れといふ。此中に御承知の御方もあ

りませう。それから寄附が來たら寄附を取りに行く銀行は現金を渡して居る。それからミストルスミスといふ人は誰からいふと、其人は今に疑問になつて居る、カーネギーが匿名でやつたのだからといふがカーネギーではない、カーネギーは必ず名を出してやるのだから誰か彼かと言つて居るが今に分らぬが、金は使つて居る、斯ういふ面白いものがある、是が亞米利加の特色と言つても宜からうと思ふ、話は横道に這入るけれども、それですから今度拵へた所のテクノロヂーの建物などは喫驚するやうなものである、實驗場の準備の整頓して居ることや何かは、最近になつてはどうですか、知らぬけれども、私が昔伯林に行つた時に見た伯林のポリエットシユウレーのやうなものでも到底及ばぬものである。其中の飛行機の研究の仕組などは大きな金を掛けて何と言つても話すことが出来ないものである、斯ういふことであつて亞米利加の進歩といふものは驚くべきものである、だから或点に於ては獨逸の肩を摩すといふ所まで來たと言つて宜いのである。是に反して英吉利はどうかといふと學者の發明した者も一人二人は無いことはない、佛蘭西も亦然り學者の發明は無いとはいはれない、併しながら全体を綜合した所で獨逸の腰を摩す位しか來て居らない。そこでさういふ仕掛になつて居るから産業參謀本部を以て戦ふといふことに就ては毀さないで居てはどうしても仕方がなくなつて來た。そこで先刻申した二千億弗を掛けても厭はぬといふので此破壊の芝居をするに至つた。だから要するに獨逸産業本部といふものを毀さなければ自分等の生存に大なる影響を生ずるものであると、いふことになつて居た。其獨逸産業參

謀本部といふものはどんな組織のものであるかといふと、一方からいふと大學も其中に這入つて居るといふやうな譯であるが、理化學研究所といふもの、それから國民經濟調査などいふもの、それから萬國經濟通信機關といふもの、斯ういふやうな三大部が寄つて出來て居るといふやうな譯で、それを一つの役所にして先刻申したやうに霞ヶ關で大きな建物に這入つて居ると直ぐ分るがさういふ風でなく諸方に分れてさういふ仕掛になるやうに出來て居る。之を毀しに掛つた。丁度加藤清正が朝鮮征伐に行つて朝鮮を毀して高麗燒をやる奴だけを家來にして連れて歸つた、斯ういふやうな譯で毀してしまつたけれども獨逸の產業參謀本部の組織は自分の所に取つて完全なものを拵へて見たいのが今日戰後の善後策のデモンストレーションといふやうなもの、即ち斯ういふものが段々出來て來るのである。是は今日茲に書いて來ましたやうに(配付の書 籍をさす)潮のやうにやつて來たならば何人でも喫驚してしまふが、それは軍隊が押寄せるやうでない、是が散りくばらくに働いて居てさうして一定の系統脈絡を引いてさうして綜合統一をやつて來るやうになる、是が即ち戰後に來るべき潮流になると斯ういふ譯であると思ふ。さうして此事が必ずしも英國の改造のみでない、亞米利加も矢張此通りの仕掛になる。

それだから從來のサイアンスといふものはどんなものであるかといふと、棚の上上げてある神様のやうなもの、棚の上上げてある達磨様のやうなもの、時々下して來れば下りて來るけれども棚の上にあつては役に立たない、今日はどうであるかといふと獨逸が最もよくそれを下してしまつて各人の應用

に供するやうになつた、そこでサイアンスの効がある、學俗接近で學者と俗人と共に生活するのが文明の生活であるが、己れは學者だ、彼は俗人だから學問などが分るものか、己れは俗人だ、彼は學者だから何が分るものか、學者と俗人と距離があつてはならぬ、學俗協力、コオペレーションで協力をして行かなければならぬ、えらい學者を連れて來なければメートル一つ拵へることが出來ぬといふ、そんな迂遠なことでは行きはしない。中には學者などよりまだえらい發明を俗人がやる、是は造物者の御直參で決して學者などの力を借る陪臣の生活をするのではない。さういふやうに今日は時代がまるで違つてしまつた。是等が皆胸襟を披いてやらなければならぬ。さうして學者には生活するに就て十分に其便宜を得せしむることをしてやるが宜い、けれども學者も亦棚の上の上つて居つて下を見下して居つたのでは行きはしないのである。日本などではどうであるかといふと、哲學者などいふ者は彼は偏屈者で俗には用の無い者だと思つて居る。ところが今日の歐羅巴殊に獨逸の如きは哲學者や文學者が皆有ゆる人の心理状態の根本を培養するやうに努力して居るのである。又甚しきに至つては宗教家だと言つても矢張り何處に一体宗教の本旨があるのだらうと疑はれるまでの愛國心、敵愾心を有つて働くといふ所に一致してやつて居るのである。斯ういふやうに見えます、間違つて居るかも知れませぬが、私にはさう見えますところが日本では哲學者といふものは一体俗に用の無い者で、あれはむづかしいことの講釋をする者だと思つて居る、さういふことではいかぬ。即ち本會の如きは勿論其感を懷かれる人の御寄合であらうと

私は推測するが、是がどうしても此点に於て餘程の距離がある。それから機械學者でなければ機械のことは知らないなどいふ、そんなことはない、機械學者でなくとも機械學者以上に知つて居る者がある。唯だ素人で専門々々といふことが流行であるけれども、専門などいふことは結構なことであるが、人に物を教へたり自分が研究したりするだけの便利の爲にやつたものであつて、造物者に聽て見たら學術といふものは専門に分けたものでない、一般のものである。それを忘れて専門々々と言つて別々のものにして此方から此方に行けないやうにして丁度現在の問題に依て労働組合の如きにしても堅に筋を引くとか横に筋を引くとかしてそれを區切する、豆腐箱に仕切をするやうにして居つたら大間違ひである。斯ういふものである、是が現代文明の綜合的關係である。餘りに近來分析的傾向に走る爲に學者も俗人も分れて共に綜合的利益を失つてしまつて居る、是が大なる吾人の幸福を害する原因になつて居るかも知れぬと思ふ。此原因を去つて實業に政治に各方面に働くやうにならなければ到底現在の強國と競争は出来ないのである。斯ういふ風に見えます。それ等の實例如何といふことに就ては多々あるであります、多々あるでありますから一々舉げて御話することも出来ませぬけれども、先づ概括した所は其通りである。

諸君近來の新聞はどうでありますか、電報も政府の電報よりも早く來ます。勿論政府の方が確かなものであります、それから新聞の方は不確かなもので後で訂正して宜いといふものである、又印刷物

も早い、早いといふけれども日本の印刷物などは牛に曳かれて善光寺詣りするやうなものであります。此頃民間にも段々出て參つて居りますが、今度の講和會議の條約は四百四十箇條あります、是がどうです、其四百四十箇條を英佛文にして獨逸に渡す、獨逸では英佛文に英佛文の翻譯を附けて出した所のものは此位の厚さが(二寸計)あります。英佛獨となりますから丁度千三百二十箇條あります。それを佛蘭西より受取つた日から二週間目に印刷して地圖がすつかり附けてある。亡國の獨逸にしてそれだけの働があります、或人が云ふのに、それは成程巴里で受取つた時の日數から考へて見たらさうだか知らぬが、是はどうしても二週間で出来る譯のものでない、是は五十箇條なり百箇條なり出來た時に段々秘密に取つて居つて翻譯したのだらうといふ、それならば尙ほ恐るべきもので、あの鐵條網を張つたやうな中から講和條約の條文を取つて修正文の出來たものは段々送つて行く途を取つて居るといふことは、是れ程恐るべきものはないと思ふ。さういふ者が寄つて國際的關係をやつて行くといふことであるならば、日本などのやうに尊棧敷に居つて、さうして緩くりやつて牛に曳かれて善光寺詣りするやうなことで、權利だとか義務だとかいふやうなことをやかましく言つて同等に行くかといふことを一つ考へて見なければならぬと思ふ。是は尙ほ恐るべき事柄である。先づ印刷業一つでも其通に後れ居てる。

又一方からいふと自動車といふものは成金だとか贅澤屋が乗る所のもので、あれは社會主義者を煽動するもので、あの塵の立つやうに社會主義者を煽動して歩くのであると斯ういふことを日本に於ては開

くのであります。それを言ふのは馬鹿でもなければ下等な人間でもない中等以上の識者であります。歐米に行つてそんな者はそれは人の多い中だから無いことはありませんけれども、段々もう無くなつた。今から二十年前には自働車の塵は社會的行動を煽動するあれは徴候であるといふことは新聞にも書いたのであります。今頃二十年経つた今日になつてそんなことを云うて居る者があるといふことで、是で一体共に文明を語るに足るべきものか足らぬものかといふことを考へなければならぬ。斯んな者を相手にして文明がどうだとか戦後の經營だとかいふことを眞面目に話されるか話されぬかといふことは明かに分る。

扱もう一つ之を逆に言うて見るとどうなるか、日本軍が大勝利を得たと茲で十萬臺の自働車を取つたといふ時に是はどうするのだらう、矢張始めて陸軍に飛行機が來た時のやうに五月人形の我家の什物だと言つて藏つて置くのだらうか、使ふものだらうか、誰が使ふものだらうか、十萬臺だの一萬臺だの、中何ほどを誰が動かすことが出来るだらう、東京中の之を動かす者が皆立つて行つて何臺動くのだらう、斯ういふことになるのですから大變なことであります。茲へ飛行機を百臺なり千臺なり分捕した所が是はどうなるのですか、之をどうします積です。それで世界の五大強國だといふのですが、是はビフグアイヴと云つて居るから、歐羅巴の中に日本が這入ると跛ビッコフアイヴになるかも知れぬ(笑聲起る)。此程度が違つて居る。彼等は即ちどうかといふと、軍隊の中に十萬臺なら十萬臺來ると、誰か乗る奴が居る。

直ぐ動かす者が居る。あれは成金がやるものだ、あれは贅澤屋がやるものだと言つて居つたらどうなるのですか、此位メカニカルアイデアでも何でも違つて居る。斯ういふ有様である。

それで日本の馬は猛獣でありますから蹴つたり喰附いたりするものだとなつて居ると、馬の顔を撫でたりそれから頬を叩いたり此方からせぬやうな譯であるけれども、是が家畜だといふことになつて居りますと、馬と身体を擦り合せて子供でも女でも歩く、是は日本に於きまして最近大分進歩してさうなつて居る。それと同じやうに今日ではどうであるかといふと、飛行機といふものは水盃をして乗るものだと心得て居るのは是はどうでありますか、ところが倫敦などは保守的の國だといふけれども、行つて見ると爺さん婆さん子供でも飛行機に乗つて居る。一磅出しますと十五分間乗せる、吾々も乗つた。ところが飛行場に行つて見て居ると自分も乗つて見ようといふ考がそつと起つて来る。丁度良い馬を上手な人が乗るのを見て居るやうに馬は危険なことはない己れも乗つて見ようといふ氣が起るやうなもので、是が即ち學俗接近である。此文明の利器を利用するのに何等改つてやるのではない、すつと其儘乗つて行く、一遍乗つて見るとどうかといふと、全く私などはあの淺草の塔に登つて斯う下を見るとグラツとするやうな感がしたが、そんな考も何もない。けれども日本の飛行機にそんなら明日から行つて乗つて御覽なさいと云はれると御免蒙るといふ、斯ういふ譯である(笑聲起る)。

それから又倫敦と巴里の間は毎日飛行機の通信がある、斯ういふやうな譯である、郵便船と同じやう

な譯であります。又丁度私が和蘭のハーグのツーリスト、ビューロー、是に行つて旅行券を求めやうとする。と揭示がある。おかしなものだと思つて見ると一週間に一遍倫敦に行くに百八十五ルーデンではない、彼處では何でありましたか、まア百八十圓ばかりで行けるのである、ちやんと飛行機に乗せるのである、斯ういふことになつて來て居る。そこで世界の五大強國と云ふものになつて是でまア大面つらといふ譯もないけれども當り前に行つて行くといふに付ては餘程の決心を要する、又歐羅巴の通信等にはどうしても無線電信局を拵へて是でやらなければならぬ。早く歐羅巴の事情を一日で知るか二日で知るか三日で知るかといふことに就て吾人の幸不幸に差を生ずる、是は毎日々々要するのである。斯ういふものを一つも拵へないで一体五大國になつた以上には四大國にさせてはいかぬ、などと云つて威張つて居つて、そんなことをすると議院に旗を立て行くといふことをやつても行けるものでも何でもなし(笑聲起る)。それは成程何時の世どんな時でも大使なり何なりに向つて満足を表ししないことがあるでせう、あるでせうけれども、それはどうも瘦馬に乗せてやつてさうして髯棧敷に据えて置いて、行きやうが遅かつたとか、向ふの聲色を聽いて來ないとか云つた所がそれは無理だ、さういふことは今日の優等國民の唱ふべきことではない、斯ういふ風に見られる。此点に於て大なる差があるたらうと私は思ふ。決して私は政府辯護を頼まれて居るのでも何でもなし、さういふ譯である。愚人と雖も人を責めるは聰明なりといふことがある、馬鹿でも人を責めるには聰明だといふ、それを責めることに旗を立て、提燈行列を

する、形は似て居つても精神が全然違つて居る。成程同盟罷工などいふことがありまして、来る三月幾日とか四月幾日に同盟罷工を致しますといふことが分つて居つてやるのである、今度の八幡の製鐵所のやうなあんなに突然と起ることは絶対に無いとはいへぬが、さう云ふことは洵に少い。又デモンストレーションの爲に行列して歩くと言つても、どうも途中に於て婆さんや子供をひどい目に逢はして硝子窓を毀したり其處らに札を撒き散らして歩かなければいかぬやうに考へることはない。さうでなければ、今日の示威運動は、嚴正肅々と歩くと、どうも氣勢が揚らぬといふ。此人間を相手にして文明の政治を説くことは非常に困難なことである、斯ういふことになるであらうと私は思ふ。

それで私は甚い同盟罷工には逢ひませぬが、三度程罷業に逢ひましたが、其中に最も御話をしたいと思ふのはボストンの警察の同盟罷業で、此ボストンの警察の同盟罷業といふものは御承知の通りコンバースといふ者が労働組合の親方で、諸君も御承知でありませうが、是がボストンの市長並に彼處の州知事に向つて自分が是の仲裁を致すに就ては是々の要求を容れて呉れるといふことで、其中の最も著しいのは今まで休んだ者にも要求通りの給料を呉れて、それから又休んだ者は相當自分の自衛上ストライキをやつたものであるから、それ等には何の咎めもなく再び採用する、斯ういふことをコンバースが出した。さうすると市長や知事の方は御免蒙る、と之を謝絶した。けれども其巡査等は組合を造つて同盟罷業をやつたのだから、そこで又組合の譯になつて來るものですから、容易なことではなく直ぐに解

決がつきさうも無い。そこでどういふことになつたかといふと、皆紳士が出てやるやうになつた。往來に出て斯うして立つて居る者は町の紳士であります。私の知つて居る者の自働車に乗つて居つて、何の某といふ紳士が自働車に乗つて行くと、向ふに立つて居る巡査が敬禮をする、紳士が巡査に敬禮をする、互ひに敬禮して通つて行くといふ譯である。又偶々自働車のタクシーのやうなものに乗つて歩くと私に巡査は何も敬禮をしない、是が吾々旅人に見える程の状態である。どうですか日本の米騒動の時にも巡査を虐めに掛つた者はあるけれども、巡査を助けて巡査の代りをやるといふ者はなかつた。是は必ずしもポストンばかりではありませぬ、英吉利に於てはさうであります。皆やつた、戦時中巡査の代りをやつた。そこで大學のprofessorsでも一時間立つとか何處かの金持でも往來に二時間立つとか皆其州の警察をやつた。斯の如くして自治警察が本當に行くべきものである。それ等のことをなくして唯文明なごゝ言つて騒ぎ廻つても是は餘程覺悟をしなければいけないことであらうと思はれる。御話したいことはありますが長くなりますから是だけに致します。



◎中右記(藤原宗忠著)

是藤氏長者本不知食寺也、依爲道隆關白
建立、強在法興院中、代々長者不知食。

(群書類從、四五三、經濟雜誌社本、一六、四六六)

◎保曆問記

判官さる人にて大原の本性聖人を請て
善知識とし……念佛申し……此人天下を知行
給しかば誰か隨はざりし

(全上、四五八、一六、七二二)

◎慈惠大僧正御遺告

政所屋一字……妙香房共可知之。

(全上、四四三、一五、六六三)

小山宅内三間四面庇板屋一字平愉君知

(全上、六六四)